

日本のプロ野球選手の身長と体重に関する研究

A study of Height and weight of professional baseball player in Japan

1K04A251

指導教員

主査 太田章先生

吉岡 拓

副査 関一誠先生

目的

野球というスポーツは、一つ一つのプレーが断続的に連なって進行していくという競技特性もあって、スコアブックにはプレーボールからゲームセットまでの全投球と、その結果が記録されている。そのため、数字での分析や数値に関わるタイトルが非常に多岐に渡っているスポーツでもある。そして、それらの分析は野球が発展していくのに伴ってさらに進歩し、打球の方向や投球のコースとの関連性についてもしばしば扱われるようになった。

しかし、その一方で、最も基本的なデータと言える身長と体重に特化した考察というのは為されていないことに私は気付いた。身長と体重は最も基本的な情報であり、学生野球からプロ野球まで、選手名鑑には必ず記載されている。もちろん、一概に身長と体重がそのまま選手の能力や成績の優劣を決定づける訳ではない。しかし、スポーツ自体が多分に身体能力に関わる活動である以上、スポーツ選手の能力と体格の関連性は言うまでもなく、一口にプロ野球選手と言ってもその体格は様々である。よって、プロ野球選手の身長と体重という単純なデータの中にも、何らかの傾向が見られる可能性は十分に考えられる。そこで、本研究では、日本のプロ野球選手の身長と体重のデータの分析を様々な側面から行い、現在の日本のプロ野球選手の身長と体重についての理解を深めるとともに、今後の変化の予想なども行っていく。

方法

2008年度のプロ野球選手の身長と体重の平均を求め、ポジション間での比較を行う。さらに、2007年度から2004年度までのプロ野球選手の身長と体重の平均を求め、最近五年間での変化を、1998年度と1988年度のプロ野球選手の身長と体重の平均を求め、十年前と二十年前との変化を、それぞれ考察する。

同様に、各年度のタイトルホルダーの身長と体重の平均値を求め、各タイトルとの関連性を分析する。

加えて、国内の他球技のリーグの所属選手の身長と体重の平均を求め、プロ野球選手と比較し、Jリーグ選手に関してはポジション間での数値の違いにおいても分析を試みる。

結果

各ポジションの平均値は、2008年度においては、投手が身長と体重の平均値の両方において他のポジションよりも高い値を示していた。最近五年間の数値を比較すると、身長には大きな変化が見られないが、体重には緩やかな上昇傾向が見られる。十年前の選手の数値と比較すると、最近五年間と同じように、身長には大きな変化が見られない一方で、体重は上昇していることがわかった。二十年前の選手の数値と比較すると、身長と体重の両方において上昇していることが読み取れ、特に体重の増加が顕著であると言える。

タイトルホルダーの平均値は、全体的に体重の値が高い値を示している。しかし、身長はタイトルによってかなり異なるという結果となった。また、ゴールドングラブ賞のタイトルホルダーの数値を基

に、より詳細な各ポジションの身長と体重の平均値を分析すると、ショートが内野手の中でも際立って身長と体重の値が低いこと、及び、ファーストが全てのポジションの中で最も身長の値が高いとすることも判明した。

他球技のリーグの所属選手の身長と体重の平均と比較すると、プロ野球選手の身長と体重には極端な特徴がある訳ではないことが判明した。また、Jリーグ選手と比較すると、プロ野球選手はポジション間での身長と体重の差は小さいということが明らかになった。

考察

プロ野球全体として、身長については大きな変化がなく、これからも大幅な成長は期待できないということが判明した。それに対して、体重については緩やかながらも確実な上昇傾向の中にあり、今後もより一層増加していくものと思われる。その背景としては、プロ野球界そのものとそれを取り巻く環境の変化が考えられ、トレーニング技術の向上や、メジャーリーグ挑戦の増加、他スポーツへの身体滝に優秀な人材の流出、時代のニーズに対応したボールの変化などが挙げられるように思う。